

後援会通信「グロース」秋号

GROWTH

—大学と家庭をむすぶ—

Linking the University with Families

2008 Autumn

vol.

13



学窓に刻まれし歴史を旅する。



シリーズ③

教育と伝道への信念・使命感で乗り越えた災禍。心に灯される「LIFE、

わが国が、近代国家への道をまい進していた明治30年代、東北学院においても、第2代院長シュネーダーを迎え、さらなる発展への礎づくりが行われました。まず、シュネーダーが着手したのは、学制の刷新。1902(明治35)年、普通科は徴兵猶予と上級学校への進学資格を、その2年後には専門部が専門学校令による資格を得ます。とりわけ普通科が取得した徴兵猶予の特典は、世間の注目を集めるにふさわしいものでした。1905(明治38)年には、東二番町に緋赤レンガの壮麗な普通科校舎が、続いて翌年には寄宿舍が完成。当時の技術の粋を集めて、教育環境が整えられていきました。一方、東北

学院の根幹である『仙台教会』の新会堂も建設され、東北伝道の拠点として、多くの人が集いました。

1915(大正4)年、普通科は中学部と改称され、1918(大正7)年には専門部にも神学科・文科に加えて師範科・商科などの専攻が設けられました。学制の充実とともに、文芸・体育の分野での活動も盛んになり、その強豪ぶりゆえに「東北に学院あり」と、その名を全国にとどろかせました。

まさに順風に帆をあげていた1919(大正8)年3月2日、仙台大火(焼失戸数700を数えた)により中学部の校舎と寄宿舍が全焼するという災禍に見舞われました。シュネーダー院長を



▲焼け跡を背に、卒業式の記念撮影。壮麗さを誇ったレンガの残骸が痛ましい。



▲新校舎の正面入り口に掲げられた3L精神は、広く長く深く、親しまれていった。

▲1922（大正11）年9月に完成をみた中学部新校舎。防火用上、平らな屋根と堅牢な外壁を備えていた。

「LIFE、LOVE」の豊かな精神。

始め教職員の悲嘆は計り知れないものがありましたが、東北学院に課せられた試練と受け止め、再建のために立ち上がります。国内外に呼びかけた支援の輪はすぐに広がり、わずか3年後には新しい校舎が落成。正面玄関には『LIFE（生命）LIGHT（光明）LOVE（愛）』の文字が刻まれました。この3L精神は、東北学院の建学の精神の真髄として、この扉をひらくすべての人びとの心に灯されることとなったのです。

❖ 次号へ続く

- | | | |
|----------|---|------------------------|
| CONTENTS | 01 学窓に刻まれし歴史を旅する。
シリーズ③ | 09 ゼミ・研究室探訪
和田 正春ゼミ |
| | 03 SPECIAL ISSUE [特別企画]
教養学部20周年記念 座談会 | 11 倶楽部拝見
バスケットボール部 |
| | 05 後援会総会報告
総会のお知らせ | 12 学務部より |
| | 06 後援会事業報告並びに予定
事業報告のお知らせ | 13 学生部より |
| | 07 CLOSE UP [同窓生インタビュー]
秋田朝日放送 北田 敦子さん | 14 就職部より |

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH（グロース）」の秋号が完成いたしました。東北学院大学後援会の会員の皆さまにお届けできますことを感謝しております。5月の後援会総会、7月から8月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も大学と家庭の架け橋となるような誌面となることを願っております。

座談会 星宮学長 × 教養学部学生

教養学部設立20周年を記念して企画された座談会。招かれた学生さんたちは、緊張でカチカチでした。それもそのはず、相手は星宮学長。しかし、学長のやさしい気遣いと軽やかな話術で、張り詰めた空気がほぐれていきました。はてさて、どんなお話が繰り広げられたのでしょうか…。

社会との接点のなかで、 自分を“再発見”し、大きく稔らせる季節。

- 星宮** 本日は、学生のみなさんとお話ができるのをとても楽しみにしてきました。よろしくお願ひします。
- 一同** (礼) よろしくお願ひいたします。
- 星宮** 早速ですが、本題に入りましょう。時折しも、実りの秋ですが、みなさんが学生生活のなかで得たもの、成長の糧になったと思うこと、大きく稔らせたものにはどんなことがあるでしょうか。
- 千葉** 私は、地域構想学科の第一期生です。本学科では、机上の理論を学ぶと共に、フィールドに出て、たくさんの人とコミュニケーションをとりながら、実践の場で学んでいくカリキュラムが数多くあります。これまでで特に印象に残っている活動は、仙台市の一番町商店街のフリーペーパーづくりに携わったことです。店主の方にインタビューをして記事をまとめたのですが、仙台の歴史や商店街の動向についてよくご存知で、とても勉強になりました。「生きた情報の有り様」というか、こういうことは本学科に入らなければ学べなかったものだと思います。
- 星宮** フリーペーパーとは縁がありませんが、家族はショッピングの折にクーポン券などをよく利用しているようですよ(笑)。私は毎朝必ず、朝日新聞、日本経済新聞、河北新報の3紙に目を通し、必要な情報はスクラップしています。千葉

さんのように“情報の提供側”に立つことによって、情報リテラシーの大切さを知る機会にもなるのではないのでしょうか。世に流布される情報が、果たしてすべてが正しいのか、資料批判の視点を持つことも重要ですね。

- 佐藤** 私は大学で学んだことのほかに、アルバイトなどを通じて、社会の厳しさを学んだ点が大きいのと思っています。初めてアルバイトをしたのが、高校卒業後ですが、そこでは「お金を得ることはとてもたいへんなことなのだ」ということを知りました。現在は、学業の合間にファストフード店で働いていますが、仕事でミスすると、上司に叱られます。社会人になればもっと厳しいのでしょうか、こうした社会の片鱗に触れたことは、貴重な体験だと思っています。

- 星宮** 私はしばしば「世話役の心」というお話をします。自分のこと

だけではなく、他者へのまなざしや気配りが、人間関係を構築するのに不可欠です。佐藤さんのアルバイト先の上司も、結果的には佐藤さんのためになると考えて指導されているのではないかと思いますし、逆に佐藤さんがリーダーになっ



たとき、利己的にふるまうのではなく、他者の立場にたって考えてほしいと思います。

与えられる学びから、自ら求めていく学びへ。 積極的な姿勢が大切。

星宮 1年、2年生のお二方は、大学での学びやキャンパスライフにどのような感想をお持ちですか。

石川 私は情報科学科で学んでいます。私なりの考えでは、本学科は、コンピューター・IT関係に進むか、数学を専門にするかに分かれると思います。私は、高校の頃から理系志望で、数学が大好きです。とりわけ大学で学ぶ数学は、高校では教えてくれなかった新しい知識であり、数学のおもしろさに改めて気づかされました。

星宮 それはとてもよいことだと思います。高校での勉学の多くは、正解を記憶して、それを早く取り出す、いわゆる受験中心型ですが、実は、学問や科学の世界は、まだ答えが見つかっていないものであふれています。みなさんには旺盛な知的探究心をもって、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。



中澤 高校とはぜんぜん雰囲気が違うと思います。何より授業に出ていても「どこが試験に出るのだろう」と心配になります。積極的に先輩に訊ねたり、コミュニケーションしていかないと、ついていくのが難しいなあと感じています。そういう意味では、新入生オリエンテーション*1があってよかったです。

星宮 千葉さん、佐藤さん、石川さんは、サポート役のオリエンテーションリーダーを担当してくださっているそうですね。ありがとうございます。高校までの与えられる学びから、自ら求めていく大学の学びへ、転換を図っていかねければなりません。刺激に満ちる新しい世界で、自分をしっかりとつとめることが大切になってきますね。

壁にぶつかっても、遠くを見通す視野と 柔軟な思考で乗り越える人に。

星宮 最後に将来の夢や目標について、ぜひ聞かせてください。
石川 私の目標は教員になることです。これはすでに中高校生の頃から考えていたことで、学科選択の根拠にもなっています。中学3年間通じて担任だった先生が、それは素晴らしい人で、難しい年頃の私たちを導いてくれました。私もそんな先生になりたいと強く思っています。

佐藤 ボランティア活動などを通じて、いちばん学んだのが、人間関係の大切さです。いろんな人たちとのかかわりあいのなかで、自分という存在がはっきりと見えてきます。今はまだ具体的な将来の目標はありませんが、この経験は必ずや役に立つと思います。

千葉 私はいま卒業論文に取り組んでいます。そのテーマが芸術を通じた地域コミュニティの活性化です。例えば、今や「楽都」と呼ばれる仙台では、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、とっておきの音楽祭、仙台クラシックフェスティバルといったイベントが全国区で有名になっています。それを都市部だけでなく、地方でも取り入れていったらよいのではないかと考えています。仕事もそういうことに携わっていきたいです。

中澤 私は在学中に「認定心理士」の資格を取って、将来的にはカウンセラーやセラピストになりたいと思っています。人びとに癒しをもたらす存在になりたいです。

星宮 みなさんはおそらく自分探しの道の途上にあることと思います。時には壁にぶつかったり、進路を阻まれたりすることもあるでしょう。しかし、挫折しても、そこから立ち上がり、リトライしていく力があるか否かが、むしろ重要です。確かな視座にたって、自分を信じてまい進してほしいと強く願っています。本日は、ありがとうございました。 ※文中、敬称略

*1 入学式から6日間にわたって行われるガイダンス、導入教育。大学生生活に必要な基本知識、手続き、注意事項についてレクチャーする。1泊2日のキャンパスは、友人を見つける機会と好評。

言語文化学科3年
佐藤 公平

趣味は読書。とりわけ司馬遼太郎の歴史小説など。激動の時代に生きた坂本龍馬のファン。

情報科学科2年
石川 貴章

スポーツ観戦（バスケット、野球、サッカー等）が趣味。ひとり暮らし。料理が得意な自炊派。

司会進行 学長
星宮 望

小学生の頃の野球に始まり、中高時代に熱中した卓球、大学時代に取り組んだ弓道、大学院時代からのテニス…と筋金入りのスポーツマン。ゆえにメタボとも無縁の体型。50歳から始めたゴルフはハンデ13。

地域構想学科4年
千葉 あり沙

趣味は、舞台観劇。クラシックバレエとピアノは小学生の頃から続けている。

人間科学科1年
中澤 栄子

ギターの弾き語りか趣味。お気に入りのアーティストはYUI。ストレス解消法は料理。



次第

日時 平成20年5月17日(土) 10時40分

会場 東北学院大学泉キャンパス礼拝堂

司会 後援会事務局長 鈴木 孝郎

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 開会宣言 | 司 会 者 |
| 2. 聖書朗読並びに祈祷 | 宗 教 部 長 佐々木 哲 夫 |
| 3. 挨拶 | 会 長 丸 森 仲 吾
学 長 星 宮 望 |
| 4. 議 事 | |
| (1) 平成19年度後援会庶務報告について | 庶務担当理事 高 橋 祥 允 |
| (2) 平成19年度後援会収支決算報告並びに
会計監査報告について | 会計担当理事 小 濱 良 雅
監 事 天 江 皓 一 |
| (3) 東北学院大学後援会規約の改正について | 事 務 局 長 鈴 木 孝 郎 |
| (4) 東北学院大学後援会会長の選任について | 庶務担当理事 高 橋 祥 允 |
| (5) 平成20年度後援会事業計画(案)について | 庶務担当理事 高 橋 祥 允 |
| (6) 平成20年度後援会収支予算(案)について | 会計担当理事 小 濱 良 雅 |
| (7) その他 | |
| 5. 後援会役員紹介 | 司 会 者 |
| 6. 閉 会 | 同 上 |



丸森会長挨拶



総会の様子

泉キャンパスに、約1,200名のご父母をお迎えし、平成20年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

(1) 平成19年度後援会庶務報告について

高橋祥允庶務担当理事より、役員人事、平成19年度役員会、平成19年度後援会総会及び大学開放プログラム、平成19年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認された。

(2) 平成19年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について

小濱良雅会計担当理事より報告があり、原案通り承認された。天江皓一監事より帳簿等が正確に整備されていることについて報告がなされた。

(3) 東北学院大学後援会規約の改正について

鈴木孝郎事務局長より、東北学院大学後援会規約の改正について説明があり、原案通り承認された。

(4) 会長の選任について

高橋祥允庶務担当理事より、東北学院大学後援会会長の選任について、引き続き丸森仲吾会長が推挙され、満場一致で選任された。

(5) 平成20年度後援会事業計画(案)について

高橋祥允庶務担当理事より、平成20年度後援会総会、平成20年度地区後援会について説明があり、原案通り承認された。

(6) 平成20年度後援会収支予算(案)について

小濱良雅会計担当理事より説明があり、原案通り承認された。

平成20(2008)年

- 4月 3日(木) 【入学式】/後援会入会式(於:仙台サンプラザホール)
4月 後援会通信
「GROWTH(グロース)」第12号発行
- 4月25日(金) 後援会役員会(於:土樋キャンパス)
- 5月 「父母のための大学ガイド2008」発行
5月17日(土) 後援会総会(於:泉キャンパス)
- 7月12日(土) 地区後援会(八戸・秋田・山形)
- 8月 8日(金) 地区後援会(鶴岡・会津若松・水戸)
8月 9日(土) 地区後援会(酒田・新潟・宇都宮・福島)
8月21日(木) 地区後援会(北上・横手)
8月22日(金) 地区後援会(一関・新庄・いわき)
8月23日(土) 地区後援会(気仙沼・米沢・相馬・盛岡)
8月28日(木) 地区後援会(大館・宮古)
8月29日(金) 地区後援会(函館・弘前・釜石)
8月30日(土) 地区後援会(札幌・青森・大船渡・郡山)

- 9月18日(木) 東北学院大生のための合同企業セミナー
(於:仙台サンプラザホール)

- 10月 職業人によるトークイベント(1・2年生対象)
後援会通信
「GROWTH(グロース)」第13号発行

- 12月 5日(金) 後援会役員会(於:土樋キャンパス)

平成21(2009)年

- 2月 4日(水) } 企業研究セミナー(於:仙台サンプラザホール)
5日(木) }

- 3月24日(火) 【卒業式】(於:仙台市体育館)

※【】内は大学主催の主な行事。予定は変更になる場合もあります。

後援会では、在学生の円滑な学生生活と大学の充実発展に寄与するため、“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開し、以下のような助成をおこなっております。

体育会、学生会、
文化会等の
課外活動団体への助成

東北学院大学
奨学金への助成

緊急貸与奨学金への助成

就職活動に対する助成

合同企業セミナー開催、職業人による
トークイベント開催、面接フォローアップ講座開催、
企業研究講座開催、など

平成20年度 東北学院大学後援会 役員・顧問・参与・事務局長・事務局員 名簿

(平成20年6月1日現在)

任期(平成20年5月18日～平成22年5月後援会総会)

- 会 長 …………… 丸森仲吾(仙台市)
- 副会長 …………… 三島卓郎(仙台市)・後藤久幸(仙台市)
- 庶務担当理事 …… 高橋祥允(仙台市)
- 会計担当理事 …… 小濱良雅(仙台市)
- 理 事 …………… 伊東知男(仙台市)・寒河江満子(仙台市)・佐久間敬子(仙台市)・村山令記(仙台市)・渡辺静吉(仙台市)・門脇利勝(石巻市)・桂 久(札幌市)・成田智典(青森市)・松本宏(八戸市)・小野寺久美子(秋田市)・深澤禎彦(横手市)・工藤敏納(盛岡市)・大友敏男(宮古市)・及川和夫(北上市)・浦島康弘(大船渡市)・金子泰雄(山形市)・鈴木信一(酒田市)・國分容子(福島市)・只野裕一(相馬市)・福井丈夫(新潟市)
- 監 事 …………… 白木進(仙台市)・浅野ひとみ(仙台市)・菅野雅之(仙台市)
- 顧 問 …………… 平河内健治・星宮望
- 参 与 …………… 関谷登・大塚浩司・遠藤健一・遠藤和朗・斎藤誠・遠藤銀朗・佐々木俊三・柴田良孝・佐々木哲夫・井上義比古・千葉昭彦・原田善教・原征明・佐藤司郎・秋葉勉・松澤茂・佐々木文彦
- 事務局長 …… 鈴木孝郎
- 事務局員 …… 今野靖・菅野健・芳賀三雄・吉田知致・佐藤光男・斎藤淳・荒孝夫・桔梗元子・石井勝雄・門脇邦知・草野正聡



赴き、話し、伝える。 ニュースの発信地へ。



秋田朝日放送 報道制作局 報道制作部

きただ まきこ
北田 牧子さん

盛岡第三高等学校から東北学院大学文学部
英文学科に入学。卒業後、NHK仙台放送局、
盛岡放送局への勤務を経て1996年8月に秋田
朝日放送(株)入社。アナウンサーとして活動中。

“自作自演”に見出した充実感。

オンとオフのスイッチが切り替わる瞬間、アナウンサーとして楽しさを感じますね。

自作自演。自らの仕事を、北田さんは親しみを込めてそう表現する。「アナウンサーと言っても、私の場合は記者兼務。取材に出て、原稿も書いて。テレビに映る時間が10%としたら、90%は汗を掻き、髪を振り乱しつつという仕事ですよ」。分業化が進むキー局とは違い、ローカル局のアナウンサーは取材から原稿作成、アナウンス業務まで一人何役も担うのが常。自らが足で得た情報を記事にし、自らの声で発信する。そこに北田さんは充実感を覚えるという。「人が知らない情報を先取りできたり、普段なら訊けないこともアナウンサーだからインタビューできたり、それは少し得した気分。取材時やテレビの本番では普段と違うスイッチが入るんですが、切り替わる瞬間が楽しいんですよ」。ただ、取り上げるニュースがすべて明るい話題ではない。2007年秋、北秋田エリア地方が大規模な豪雨災害に見舞われた。その取材は長いアナウンサー生活でも忘れ難いものだったという。「実際に現場に足を運んでみると泥だらけ。臭いも大変なもので、そこで初めて被害の甚大さを実感しましたね」。それから数カ月後、一見平穏を取り戻したかのような現場を再度訪れた時の出来事が深く心に焼き付いているという。「お店が復興された方への取材の途中、被災から何ヶ月も経過しているのに涙を流されて」。そう語る北田さんの声も震えていた。何年経っても新しいニュースはある。報道に携わる身として、こうしたニュースを対岸の火事にはいけけない。伝えていかなければならないと、改めて強く感じた瞬間だった。

お金はなくても時間があるのが学生時代。興味あることにはとにかくチャレンジを。

親の背中を見て子は育つというが、北田さんがアナウンサーを志したのも親の影響が大きいという。「もともと母親がアナウンサーになりたかったようで、朗読がとても得意だったんです。聞いているうちに自分も上手に読めるようになって、不思議と気持ちも乗ってくるんですよね。こういう

テレビ朝日系列加盟26社のアナウンサーを対象に、1年間の多大な努力と成長、技術向上が顕著な人を表彰する「ANNアナウンサー賞」。北田牧子さんは昨年度、中継部門で奨励賞を受賞した。キャリアを積んだ今も現状に甘んじることなく、新たな発見を求めてひた走るその姿はプロフェッショナルそのものだ。



「ANNアナウンサー賞」奨励賞の盾

ことを仕事にできるのならきっと楽しいだろうなあって」。その夢が目標に変わったのが大学時代。所属したサークルは放送会。定期的な番組制作や校内放送、学園祭でのステージ発表など、活動にはとにかく熱心だったと北田さんは当時を振り返る。また、放送局でアルバイトをしていたサークルの先輩に促され、学業の傍らラジオのリポーターも経験。少しずつチャンスを広げ、憧れの世界を引き寄せてきた。「今考えても、やっぱりサークルに所属していたことが大きいですね。就職活動も放送局メイン。狭き門ではありましたが、どこでもいいからアナウンサーとして働かせていただける会社があれば。その一心で走り続けました」。そして想いは実り、卒業後、晴れてプロのアナウンサーの道を踏み出すことに。最後に後輩へのメッセージをお願いすると、憧れを現実に変えた北田さんらしい答えが返ってきた。「絶対に叶わない、届かないと思っても、チャレンジを続けていけば近づくことはできるはず。

お金はなくても時間があるのが学生時代。色々な場所に赴いて、色々なものを見て、色々なことを体験するべき。興味ある分野をとことん突き詰めていけば人脈も広がりますし、ためらう前に行動を起こしてほしいですね」。



学びの庭は、地域にアリ。

厳しい実践の場で、鍛えられ、磨かれる可能性と潜在能力。大きく成長した一人ひとりの姿に拍手！

✦ 経済学部 経営学科 和田 正春ゼミ

お客様に選ばれる「価値」を生み出し、管理する「サービス・マネジメント」。サービスとはなにか？教室を飛び出して、現場に立つ。

本シリーズ2回目にご登場いただくのは、経済学部の和田先生。研究室を訪れた私たち取材班を迎えてくれたのは、ドアに飾られた織姫・彦星のイラスト人形。どうやらこの愛らしい飾り物に、学生さんたちが学び・研鑽を積む「サービス・マネジメント」の秘密が隠されているようです。和田ゼミ生を中心とした学外活動サークル「4-LEAVES (フォーリーブス)」のユニークな取り組みは、新聞やテレビ等でも盛んに取り上げられており、ご存知の方も多いかと

思います。今回は、その背景や成果について、詳しくご紹介していきます。

本題に入る前に和田先生がご専門の「サービス・マネジメント」に関して、簡単にご説明しましょう。「サービス・マネジメント」とはマーケティング研究の関連領域に位置する概念。「モノ」による差別化が厳しさを増す、あるいは限界に達しているこんにち、顧客ニーズに合致した適切かつ価値ある“サービス”を提供し、その質とレベルの維持管理を行っていくことは、企業経営の根幹にかかわる取り組みといっても過言ではありません。これからビジネス社会に主体的・自律的に参加する人が、「サービス・マネジメント」を学ぶことは、大きな意味と意義を持ちます。「お客さまの満足や喜びを保証する」ための理論やメソッドを学ぶ学生さんたちが、教室を飛び出して、サービスの“実践の現場”に身を置く。これが和田ゼミ生たちの学外活動なのです。

舞台は「仙台七夕まつり」、地元企業との協力連携のもと、おもてなしの心=ホスピタリティを体現。“学生だから”という言い訳は封印。

和田先生はまず“旅の醍醐味”についてのお話を始めました。「旅の印象を左右するファクターとは何でしょう？景勝地を観る、名物を食べる、伝統や文化に触れる…どれもが素晴らしい旅の体験ですが、それ以上に、その地で出会ったり触れ合ったりした人びとの印象が深く胸に刻まれることはないでしょうか」。確かに旅先での温かさややさしさは、心のアルバムにしっかりと残され、再訪のきっかけにもなります。和田先生は続けます。「私のゼミでは、『マーケティング』や『サービス・マネジメント』を学ぶなかで、“顧客満足”に関する理論を積み上げていきます。しかし、机上では理解に達しても、お客さまを喜ばせ、満足させるものが実際にはどれほど複雑で難しいものであるかをリアルに感じる事ができません。そこで地域に飛び出し、「おもてなし=ホスピタリ

◎ヘッドラインニュースを賑わせる昨今の金融・経済界。「そもそも経済活動とは『人を喜ばせた、幸せにした』ことへの対価を得る行為であるはず。そこを決して見誤りたくはないですね」と和田先生。行動規範となる理念や企業倫理、顧客満足への視点…企業人たるもの、まずそれらを肝に銘じなければ、と和田先生は説きます。

経済学部 経営学科

和田 正春 准教授

1965年生まれ。上智大学経済学部経営学科卒業、ベンチャーキャピタル勤務を経て、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得。平成8年より現職。顧客サービスの質とレベルの維持管理にアプローチする「サービス・マネジメント」が専門であり、長期的視野に立った実践的なマーケティング理論を展開するエキスパート。ビジネス書の翻訳者としての顔も持つ。信州（長野県）出身。





大学在学中(学部4年生)から始めたビジネス書の翻訳は20冊を数えます。「とにかく締め切り厳守を自分に課し、わかりやすい訳を心がけました。仕事を紹介してくれた恩師や、継続して発注してくれた編集者など、人とのつながりを実感しました」と和田先生。



とかく「観るだけのお祭り」と称される仙台七夕。観光客の方にも参加して欲しいとの願いを込めて企画されたメッセージアートや吹き流しづくり、短冊書き。「お客さまの反応によってモチベーションが上がり、士気が高揚することによって、さらにより良い結果がもたらされるという好循環になっていたようです」と和田先生。

ティ)について、現場で学んでいるのが、ゼミ生のみなさんが中心になって組織する学生活動サークルなのです。

始まりは5年前、「学生の協力がほしい」という商店街さんのラブコールを受けて、仙台4大祭り^{*1}のひとつの「SENDAI光のページェント」の音楽イベントに関わりました。その後、継続してさまざまな活動を行ううち、ゼミ生以外の学生さんも参加、中には他大学生や高校生も交じって「仙台を良くするプロジェクト」、その名も「4-LEAVES(フォーリーブス)」が立ち上がりました。フォーリーブスでは、仙台の既存の社会活動である祭り・イベントなどに合わせて企画活動を行うと共に、地元へ貢献する種々の活動を自主的に行っていますが、その柱となる催しが「仙台七夕まつり」です。七夕に来訪する観光客の方に喜んでいただけるようないろいろな試みを、商店街や商工会議所、地元企業と連携して取り組んでいます。冒頭に紹介した織姫・彦星イラストは、参加型のお祭りを呼びかけた際に使用したものです。

社会に働きかける難しさ。
汗、冷や汗をかきながら懸命に取り組む。
多くの成功体験が、人間的成長への牽引力となっていく。

「私は指導する立場にありますが、基本的には学生さんたちの自主性にまかせています。まずは企画書の立案に始まり、それをプレゼンテーションしていくわけですが、アイデアと熱意がすぐに受け入れられるとは限りません。修正や調整を繰り返して、主催者やスポンサーの方々にご納得いただけるものに仕上げていきます。学生たちは、壁にぶつかり、汗・冷や汗、時には恥をかき(笑)がんばっています」。また、地元商店街との協力関係を構築するまでの努力も特筆すべきものがあります。普段の清掃活動や不動尊のお祭りの手伝いなど、先輩から後輩へ継がれてきた、地味で弛みない活動がベースになっているのです。

国内の大学の学外活動のなかでは稀有な規模を誇る(和田先生)という「4-LEAVES(フォーリーブス)」。

「はじめは積極的とはいえなかった学生さんが、率先して活動を牽引するリーダーへと変貌していったり、組織を支える縁の下の力持ちを買って出たり…。驚くほどの人間的成長を遂げるのです。教授する立場として、これ以上の喜びはないとも語ります。“掲げた理念のもと、一貫したスタンスで継続する”ことはビジネスの基本。和田先生の「良いものを創るためには妥協してはならない」という信念を学生さん達がしっかりと受け継ぎ、ひいてはそれが可能性と潜在能力を拓く鍵になっているようです。

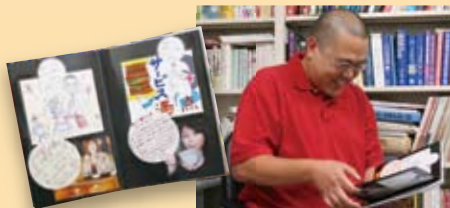
さて、これまで地域の経済界・産業界のリーダーを多く輩出してきた本学の「経済学部」は来年春、「経済学部(経済学科、共生社会経済学科)」「経営学部(経営学科)」へと新たに生まれ変わります。経済学科は新カリキュラムへ移行、共生社会経済学科、経営学科は新設です。“変わらないために、変わり続ける”21世紀の東北学院大学改革の第一歩です。どうぞご期待いただきたいと思います。

^{*1} 仙台市街地で開催される4つのお祭り。「仙台・青葉まつり」(5月第3日曜日とその前日)、「仙台七夕まつり」(8月6~8日)、「定禅寺通ストリートジャズフェスティバル」(9月第2日曜日とその前日)、「SENDAI光のページェント」(12月12日~31日)がある。

MY FAVORITE

私のお気に入り

和田ゼミ卒業生から贈られたスクラップブック(写真を自由にレイアウトして、思い出や感想を手書きで書き添えたクラフト。今、静かなブームです)。そこには“私たちはこの背中を見て育ちました(涙)”“和田語録が私の基礎になっています”“授業では毎回いい刺激を頂きました”の文字が躍ります。「授業やゼミで何気なく発した言葉をよく覚えているなあと感じています」と和田先生。大切な宝物です。



▲思わず顔もほころんで

倶 楽 部 拝 見



男子バスケットボール部

第2Q途中、25点のリードを許す展開。闘志さえ薄れかねない点差の中、ドラマは始まった。

bjリーグ、仙台89ersで活躍する高橋憲一、松田大地らを輩出した男子バスケットボール部はその日、インカレ予選を兼ねた東北学生リーグ一部・1次リーグに挑んでいた。「昨年の主力が3人抜けた状態が今年のチーム。人数も少なく、特にインサイドの強さが物足りず苦しい状況ではありますね」。こう語るのはチームを率いて10数年になる佐々木桂二コーチ。全国の上位を窺おうとすれば、2mクラスを擁するチームと対戦が組まれることも稀ではない。インサイドでの勝負に難がある分、徹底したチームディフェンスでから攻撃につなげるのが東北学院大の戦術。総勢24名のメンバーがこのスタイルを共有し練習に励む中、アクシデントが襲ったのは夏前のことだった。佐々木コーチがキーマンに指名する須田祥任キャプテンの怪我による離脱がそれだ。強化キャンプにも参加できず、ようやく合同練習に参加できるようになったのは大会10日前。思うような練習ができないまま挑んだ1次リーグ2戦目、不安的中し最大25点差を追う展開。嫌な流れを変えたのはチームに合流して間もない須田キャプテンだった。「自分の成績は二の次。勝つことが何よりも大事だと思っていますし、バスケットは大学で卒業。だからこそこのチームでの一戦一戦を大事にしたいですね」。その言葉が現すように周りの選手を活かし、隙あらば自らもポイントを重ね続け試合終了直前に逆転。劇的な勝利へと導いたのだ。

そして戦いの場はインカレへ。過去の最高成績はベスト8。自分たちのスタイルが実践された時、それは東北学院大学のバスケットボール部に新たな歴史が加わる瞬間なのかもしれない。



男子バスケットボール部キャプテン
須田 祥任さん
(経済学部経済学科4年)



本学が代表校となった 「戦略的大学連携支援事業」 が採択されました

学務部長

井上 義比古

以前にもご紹介したように、本学を含む仙台圏の高等教育機関および自治体、経済団体は、各機関、参加機関全体、および地域の総体的発展を目指し、「学都仙台コンソーシアム」を組織して活動を続けてきていますが、予算は限られており、活動が急速に成長しているとは必ずしも言えませんでした。そこで、「コンソーシアム」としては、個別の事業に対する補助金の申請を模索していましたところ、大学の資源の有効活用による地域における大学の教育研究環境等の充実、および、大学間の連携強化による個性化・特色化の加速、教育研究水準の更なる高度化を目的として、大学等が連携して行う事業、すなわちコンソーシアムそのものを支援するための「戦略的大学連携支援事業」補助金が新設されたのです。

そこで、「コンソーシアム」発足時の目標をこれまで以上に実現するため、「仙台圏所在大学等の連携を強化・拡充することによる相互的及び総合的発展」という取組を策定し、本学が代表校となって「戦略的大学連携支援事業」に申請したところ、補助対象事業に選定されました。この事業に直接参加するのは、本学を始めとする仙台圏の17の国公立大学・短大ですが、

宮城県、仙台市、仙台商工会議所、みやぎ工業会、学都仙台コンソーシアム加盟の他の高等教育機関も協力関係にあります。

この取組で実施される事業は、一部科目の授業のWeb配信を含む単位互換の拡充、連携公開講座の拡充による市民の生涯教育充実、共同ホームページの充実およびオープンキャンパス時の巡回バス運行等広報活動の拡充、FD（教員の資質向上）とSD（事務職員の資質向上）の連携と融合を通じた教育力の向上、教員免許更新講習での連携、災害時対応マニュアルの共通整備および災害時ボランティア養成講座、先端産業の協力を得た産学連携講座、などです。

これらの共同実施を通して、高等教育機関の教職員の教育力・情報収集能力・企画力等の総合的な向上がはかれるだけでなく、これまで以上に仙台圏の市民のニーズにも応えることができます。補助金交付期間は3年ですが、事業は10年間継続される予定です。

様々な事情によって代表校となった本学は、代表校としての大きな責任を果たさなければなりません。全学をあげてこの事業に取り組み、教育サービスの向上だけでなく、地域貢献という面でも他大学の目標となれるよう、努力を重ねてゆきます。



合同協議会

学生代表と
意見交換を行うしくみ

学生部

原田 善教

東北学院大学には、学生代表として文系学部（文学部、経済学部、法学部、教養学部）の学生を構成員とする学生会（学生自治会）と工学部の学生を構成員とする学生会の2つが存在しています。この2つの学生会と大学は定期的に（毎年秋に）意見交換の機会（合同協議会）を持つことにしています。この協議会には、大学側からは学長をはじめとする大学の役職者および事務部門の責任者が参加することになっています。

この協議会の歴史は古く、1952年頃から行われています。当時の記録によると、学長が若い学生と直接に親しく接し学生の考えを聞き建学の精神を語ることが、学生支援に大きく資するという発想からスタートしたようです。

今日までよき伝統として引き継がれ、学生の側からみた大学の諸問題が提起されています。学生会のさまざまな提案は、本学の状況だけではなく他大学の状況も調査した上で、それらとの比較の中で行われています。この協議会には多大な時間が費やされ、大学の考えを丁寧に説明しながら学生会と話し合うことにしています。この会を通じた多様な学生の意見のくみ上げが、大学のさまざまな政策に反映されています。

この協議会で取り上げられるテーマは多岐にわたっています。具体的には、教員の授業内容や職員の窓口対応に対する苦情などが取り上げられ、FD（教員の教育力の向上研修）・SD（職員の業務研修）を充実させることや、科目登録のあり方など教務に関する事項、学内の施設や設備の改善に関するものなどがこれまで取り上げられてきました。最近では全学禁煙化に向けた取り組みについても話題になっています。こうした学生会が要望する事項に大学側が応えるスタイルをとっています。協議された内容は後に「コミュニケ」として文書化され全学に公表されています。

このような伝統に基づく合同協議会は、学生たち自身の考えを話し合いの場で学長自らが取り上げてくれるということで、学生たちに大きな自信を与え、様々な視点で自分たちの活動の場である大学をいかによりよいものにするかという着想を生み出し、学生と大学側との有機的な連携に大きく貢献しています。もちろん、学生たちの要望をすべて聞き届けることはできませんが、できない理由などもきちんと説明し、学生たちとの信頼関係の醸成に努めています。

就職活動を通して たくましく成長しよう

— 就職への道のり —

就職部長

原 証明

景気は“いま踊り場の状態にある”などという表現が政財界の話題から消えて久しい。それどころか現実にはアメリカ発の巨大証券会社の経営破綻のおおききを受け、世界中で経済活動が「先行き不透明」な状況にあります。従ってこれから大学を巣立ち行く学生たちにとって、就職活動は「少子化時代」だからといって必ずしも楽なことではありません。規制緩和が進む中で、企業の経営者は厳しい国際競争力にさらされているのです。例えばそのために、一見すると利益には直接につながらないようにみえる事務系の「データ処理」をコストの安い中国などでやらせ、インターネット上で受け取るといった事例さえ現れているようです。大学教育における国際交流は盛んですが、こうした事例はまるでそれを逆手に取ったものではないでしょうか。

それゆえに若者が、いわゆる「納得のいく職場」や企業に就職するためには頑張らなくてはなりません。本学の就職部では入学時の早い段階から将来に向かって様々な職種や企業への就職支援のため、必要な準備やそのためスケジュールを組んでいます。

また、就職部のスタッフは出来るだけ学生個々人の相談にも応じる体制をとっています。最近は就職活動もインターネット上で可能になりましたが、それと各人が仕事に向いているかどうかは別のことなのです。むやみやたらに企業を訪問しても失敗し、場合によっては自信をなくさないとも限りません。準備段階で自己分析や企業研究をしっかりと行い、自分に合った職種や企業を探し、志望動機や自己PRを明確にして試験にのぞむことが必要です。就職活動を続けるには根気よくなければなりません。新卒として入社できるのは今しかありません。大切なのは「前向きな気持ち」で取り組むことなのです。

教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、次の事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

募金目標額
20億円

- 1 東北学院榴ヶ岡高等学校体育館および管理棟建設
- 2 東北学院大学キャンパス整備
- 3 東北学院会館(仮称)建設
- 4 東北学院育英奨学基金の増額
- 5 東北学院中学校高等学校校舎建設

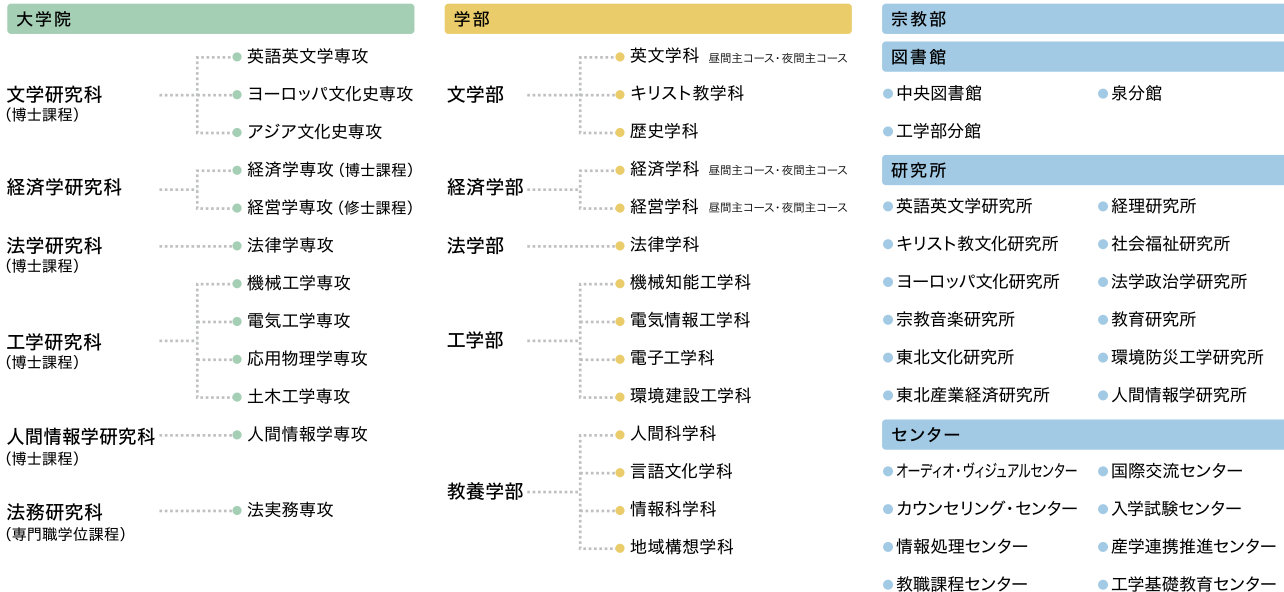
● 詳しくは、こちらまで問い合わせください。

東北学院法人事務局財務部財務課

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
tel 022-264-6467 fax 022-264-6510

ORGANIZATION 教学組織図

平成20(2008)年4月1日現在



東北学院大学

土樋キャンパス
 大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科、法務研究科
 学部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、夜間主コース
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
 tel 022-264-6421(総務課)
 fax 022-264-3030(//)

多賀城キャンパス
 大学院：工学研究科
 学部：工学部
 〒985-8537 多賀城市中央1-13-1
 tel 022-368-1116(庶務係)
 fax 022-368-7070(//)

泉キャンパス
 大学院：人間情報学研究科
 学部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、教養学部
 〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1
 tel 022-375-1121(庶務係)
 fax 022-375-4040(//)

東北学院大学後援会通信 GROWTH(グロース) vol.13

■ 本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日/平成20(2008)年10月

編集/東北学院大学後援会事務局(総務部総務課内)

発行/東北学院大学後援会 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 tel 022-264-6411 fax 022-264-3030

E-mail kouenkai@staff.tohoku-gakuin.ac.jp URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

印刷/ハリワココミュニケーションズ株式会社

【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

【「個人情報保護法」への取り組みについて】平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたのに伴い、東北学院大学後援会では個人情報取扱いについて、学校法人東北学院が制定した「学校法人東北学院個人情報保護規程」にのっとり、個人情報の適正な管理と保護に努めています。後援会事務局では、東北学院大学後援会の運営に必要な皆様の個人情報をお預りしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、後援会事務局で使用する個人情報の利用目的は次の通りです。

● 「父母のための大学ガイド」並びに「後援会通信「グロース」」の発行・送付 ● 「後援会総会」並びに「地区後援会」の案内 ● その他、上記に関連する業務

○ GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙一3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と共に成長するよう大きく成長するようという期待が本誌に込められています。



GROWTHは、環境に優しい森林認証紙を使用しています。